



東映株式会社

2027年3月期第1四半期 連結決算説明資料

(2026/4～2026/6)

公式X【東映公式ニュース】

https://x.com/TOEI_PR

公式LINE【東映IR News】

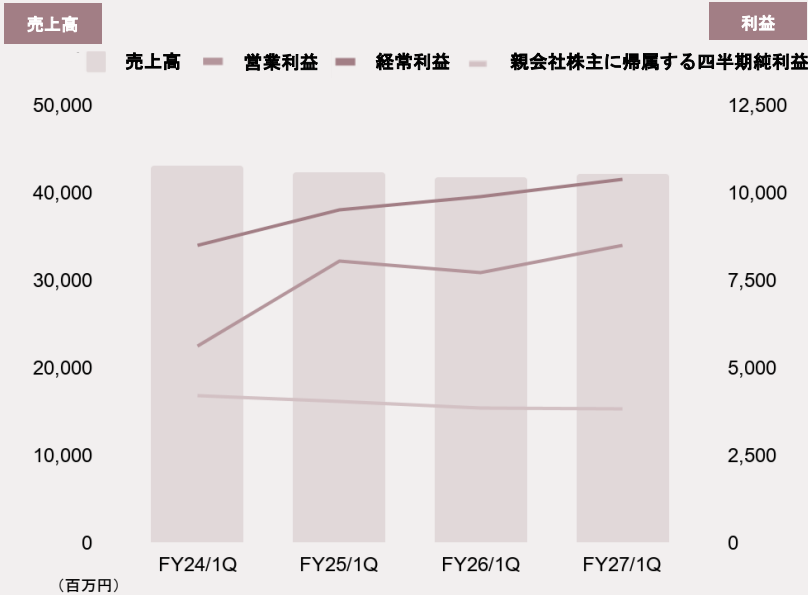
<https://lin.ee/5dETVtz>





(百万円)	FY24/1Q	FY25/1Q	FY26/1Q	FY27/1Q	前期比較	
売上高	43,063	42,353	41,836	42,075	238	0.6%
売上原価	28,617	25,127	24,190	22,593	▲1,597	▲6.6%
販管費	8,837	9,180	9,923	10,992	1,068	10.8%
営業利益	5,608	8,045	7,723	8,490	767	9.9%
経常利益	8,489	9,515	9,893	10,376	482	4.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,199	4,039	3,856	3,827	▲29	▲0.8%

※FY=会計年度：FY27は2026年4月～2026年6月の期間
※百万円未満を切り捨てて表示しております。



2027年3月期第1四半期連結決算の特徴

売上高

コンテンツ事業の増加により映像関連事業が増収となった。前期好調だった興行関連事業が引き続き好調を維持。また、催事関連事業は堅調に推移した。建築内装事業は好調だった前期に対し反動減となった。以上から前期比0.6%増となった。

営業利益

映像関連事業が売上増を受けて増益。興行関連事業、催事関連事業、建築内装事業も堅調に利益を計上した。人件費、地代家賃、諸手数料等の増加により販管費が増加したものの、営業利益は前期比9.9%増となった。

経常利益

持分法投資利益の減少があったものの、経常利益は前期比4.9%増加した。

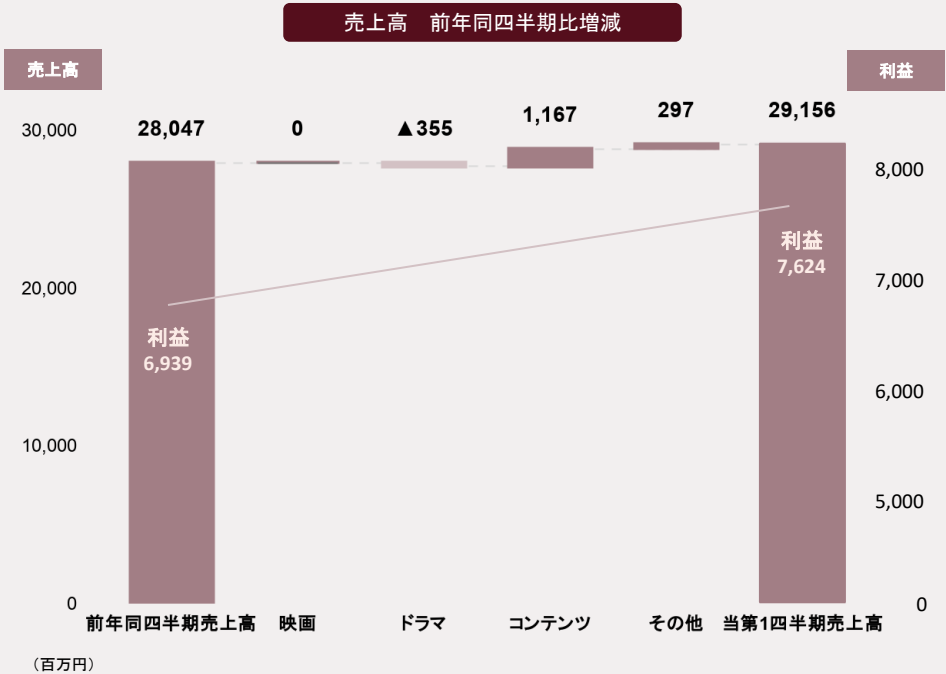


セグメント	サブセグメント	FY26/1Q	FY27/1Q	増減	比較増減	増減/セグメント割合	分析コメント
映像関連事業	映画	695	694	0	▲0.1%	2.4%	映画事業は堅調に推移した。また、コンテンツ事業は、アニメ主要作品における配信権販売の好調を受けた映像製作・販売事業や、商品化権販売の好調による版權事業の好調に加え、円安により増収となった。
	ドラマ	2,429	2,073	▲355	▲14.7%	7.1%	
	コンテンツ	20,375	21,542	1,167	5.7%	73.9%	
	その他	4,547	4,844	297	6.5%	16.6%	
	売上高合計	28,047	29,156	1,108	4.0%	100%	
	利益合計	6,939	7,624	684	9.9%		
興行関連事業	売上高合計	5,765	5,788	22	0.4%	100%	『名探偵コナン ハイウェイの墮天使』、『ザ・スーパーマリオギャラクシー・ムービー』、『プラダを着た悪魔2』等の大ヒットが業績を牽引し、好調に推移。
	利益合計	431	380	▲50	▲11.7%		
催事関連事業	催事	2,851	2,602	▲248	▲8.7%	82.8%	『真アギト展』、『ナンバーワン戦隊ゴジウジャー ファイナルライブツアー2026』、『ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト』他の催事における動員・物販が好調。太秦映画村はリニューアル工事後の収益確保に努め、前年同四半期比の入場者増により増収。※太秦映画村は3月28日にリニューアルオープン
	映画村	356	541	185	52.0%	17.2%	
	売上高合計	3,207	3,144	▲62	▲2.0%	100%	
	利益合計	397	495	97	24.6%		
観光不動産事業	不動産賃貸	1,102	1,186	84	7.6%	69.2%	不動産賃貸事業、ホテル事業ともに堅調に推移。
	ホテル	482	526	44	9.1%	30.8%	
	売上高合計	1,584	1,713	128	8.1%	100%	
	利益合計	628	617	▲11	▲1.8%		
建築内装事業	売上高合計	3,231	2,272	▲959	▲29.7%	100%	前年同四半期の大型工事の反動減。
	利益合計	237	304	67	28.3%		
売上高合計		41,836	42,075	238	0.6%		※FY=会計年度：FY27は2026年4月～2026年6月の期間 ※百万円未満を切り捨てて表示しております。
利益調整額		▲911	▲931	▲20			
利益合計		7,723	8,490	767	9.9%		



(百万円)	FY26/1Q		FY27/1Q		増減比率
	売上高	28,047	29,156	1,108	4.0%
映像関連事業	利益	6,939	7,624	684	9.9%

※FY=会計年度：FY27は2026年4月～2026年6月の期間
※百万円未満を切り捨てて表示しております。



公開日	興行収入 (2026/6末時点)	作品名
4月29日	4.7億円	『アギト-超能力戦争-』
6月5日	1.3億円	『SAMURAI BLUE Project for FIFA World Cup 2026™「ONE CREATURE」 無数の個性、ひとつの生きもの。』
6月19日	4.3億円	『免許返納!?』



映像関連事業の分析

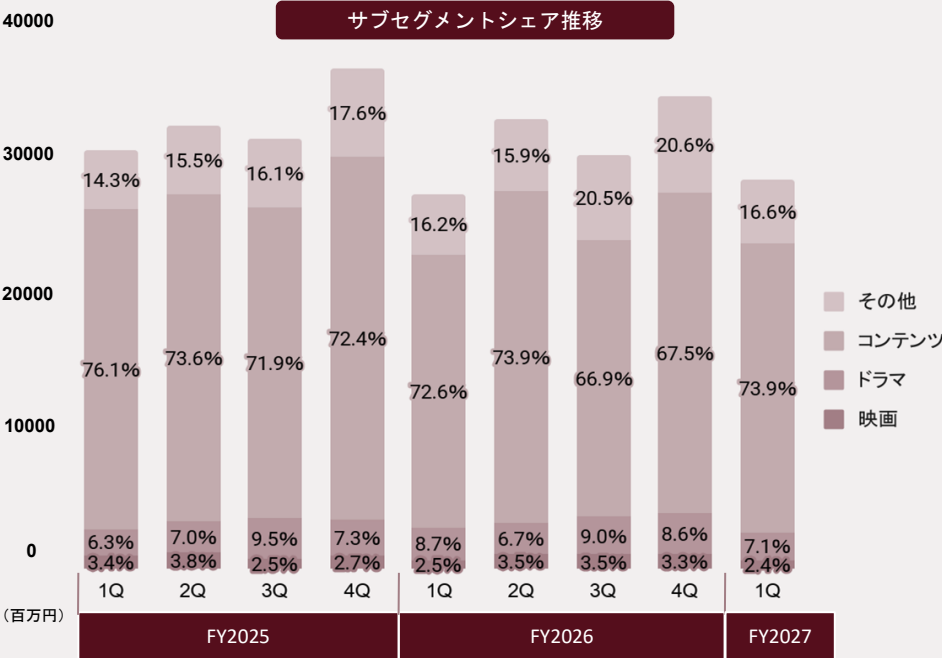
- ▶ 映画事業
配給収入が堅調に推移した。
- ▶ コンテンツ事業
アニメ作品において、『ドラゴンボール』シリーズの配信権販売が国内外全地域で好調に推移し、また『ワンピース』の海外商品化権販売も好調が継続し増収となった。



サブセグメント別売上高比較

映像関連事業 サブセグメント 売上高	(百万円)	FY26/1Q	FY27/1Q	増減比率	
	映画	695	694	0	▲0.1%
	ドラマ	2,429	2,073	▲355	▲14.7%
	コンテンツ	20,375	21,542	1,167	5.7%
	その他	4,547	4,844	297	6.5%

※FY=会計年度：FY27は2026年4月～2026年6月の期間
※百万円未満を切り捨てて表示しております。



映像関連事業のサブセグメント別分析

映画

『アギトー超能力戦争ー』、『免許返納!?』、『SAMURAI BLUE Project for FIFA World Cup 2026™「ONE CREATURE」 無数の個性、ひとつの生きもの。』が堅調に稼働。また、前期第4四半期に高稼働した『木挽町のあだ討ち』を延長上映した。

ドラマ

ドラマ事業では、『仮面ライダーゼッツ』、『超宇宙刑事ギャバン インフィニティ』、『ボーダレス～広域移動捜査隊～』、『キミとアイドルプリキュア♪』等を製作。特撮キャラクターの国内商品化権営業は、高価格帯フィギュア、旧作の周年記念施策、企業とのタイアップCMやコラボ施策等へ版權を許諾。以上から堅調に推移した。

コンテンツ

▶国内
アニメは、『ドラゴンボール』シリーズの配信権販売が好調だったものの、前年同四半期に好調だった『ワンピース』の商品化権販売が反動減。

実写は前年同四半期に好調だった新作映画の配信権販売が反動減。

▶海外
『ドラゴンボール』シリーズの配信権販売、『ワンピース』の商品化権販売、『デジモンアドベンチャー』シリーズのゲーム化権販売が好調。また、為替の影響もあり、大幅に増収。

その他

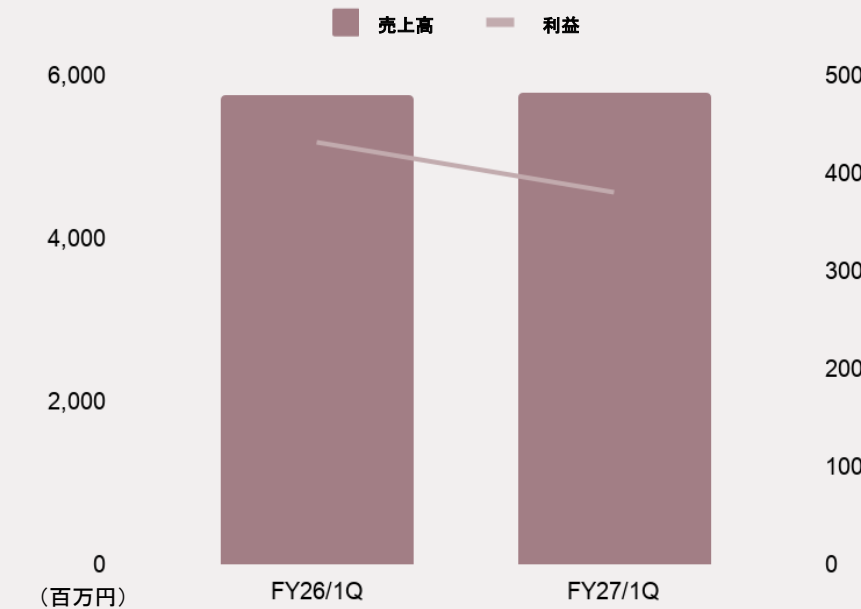
東映アニメーションの催事が、『ワンピース』『ワールドトリガー』『プリキュア』シリーズ等各種作品が高稼働し、増収。

東映アニメーションの商品販売が、『ドラゴンボール』シリーズのショップ事業の好稼働により、増収。



(百万円)		FY26/1Q	FY27/1Q	増減比率	
興行関連事業	売上高	5,765	5,788	22	0.4%
	利益	431	380	▲50	▲11.7%

※FY=会計年度：FY27は2026年4月～2026年6月の期間
※百万円未満を切り捨てて表示しております。



興行関連事業の分析

東映ジョイ・エンタテインメント株式会社（2026年4月1日付で株式会社ティ・ジョイより商号変更）がシネマコンプレックス（共同経営・共同運営を含む）を運営。

23サイト230スクリーン体制（2026年6月末現在）で展開。

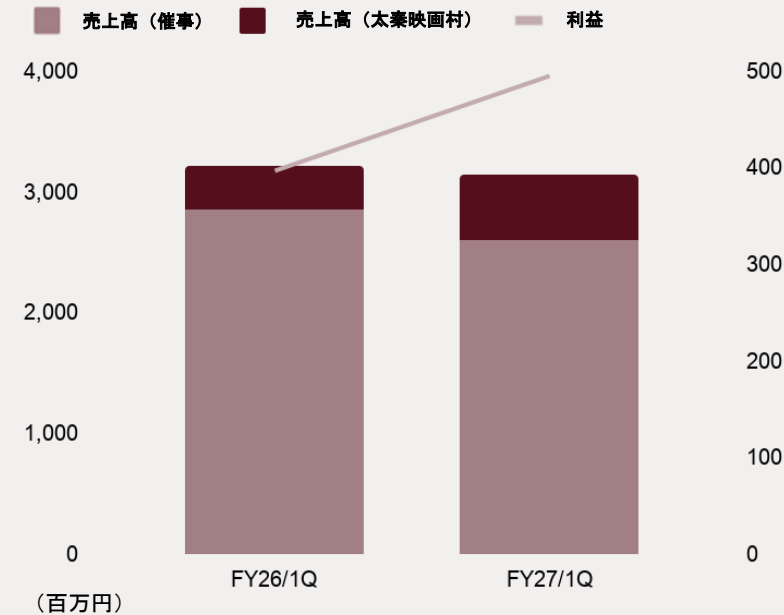
『名探偵コナンハイウェイの墮天使』、『ザ・スーパーマリオギャラクシー・ムービー』、『ブラダを着た悪魔2』、『Michael/マイケル』、『スター・ウォーズ/マンダロリアン・アンド・グローグー』等の大ヒットにより、前期からの好調を維持。

一方、売上高増加に伴う変動賃料、諸手数料の増加、また人員の増加による人件費の増加、資産増加に伴う減価償却費の増加があり、前年同四半期比で減益した。



(百万円)		FY26/1Q	FY27/1Q	増減比率	
催事関連事業	売上高	3,207	3,144	▲62	▲2.0%
	利益	397	495	97	24.6%

※FY=会計年度：FY27は2026年4月～2026年6月の期間
※百万円未満を切り捨てて表示しております。



催事関連事業の分析

サブセグメント別売上高比較

(百万円)		FY26/1Q	FY27/1Q	増減比率	
催事関連事業	催事	2,851	2,602	▲248	▲8.7%
	太秦映画村	356	541	185	52.0%

※FY=会計年度：FY27は2026年4月～2026年6月の期間
※百万円未満を切り捨てて表示しております。

催事

▶ イベント事業
『真アギト展』 『ナンバーワン戦隊ゴジュウジャーファイナルライブツアー2026』
『ヒーローライブスペシャル2026』 『キミとアイドルプリキュア♪』（各種フロア催事）等の自社IPイベントが好調。また『ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト』が高稼働した。
また催事の動員に加え、催事会場での物販が好調。

▶ 商品事業（劇場商品、ECサイト、仮面ライダーストア）
劇場関連商品が好調。
仮面ライダーストア及びECサイトも好調に推移。

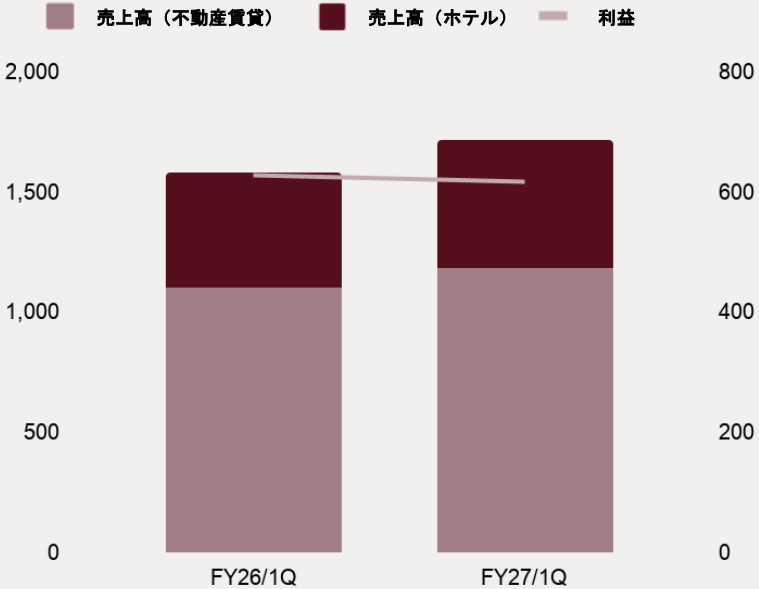
太秦映画村

前年同四半期比で入場者の増加に伴い、増収。
一方、減価償却費や宣伝費等の増加に伴い減益。



(百万円)		FY26/1Q	FY27/1Q	増減比率	
観光不動産事業	売上高	1,584	1,713	128	8.1%
	利益	628	617	▲11	▲1.8%

※FY=会計年度：FY27は2026年4月～2026年6月の期間
※百万円未満を切り捨てて表示しております。



(百万円)

観光不動産事業の分析

サブセグメント別売上高比較

(百万円)		FY26/1Q	FY27/1Q	増減比率	
観光不動産事業	不動産賃貸	1,102	1,186	84	7.6%
	ホテル	482	526	44	9.1%

※FY=会計年度：FY27は2026年4月～2026年6月の期間
※百万円未満を切り捨てて表示しております。

不動産賃貸

「東映プラザ（渋谷・福岡・広島・仙台）」「新宿三丁目イーストビル」等の複合商業施設及びマンション等を賃貸運営。

複合商業施設及びマンション等において、市場実勢に合わせた賃料の適正化を進め、賃貸収入が増収。

一方、太秦映画村のリニューアル、ルーウェ東大泉の稼働に伴う減価償却費が増え、昨年同四半期に比べ減益となった。

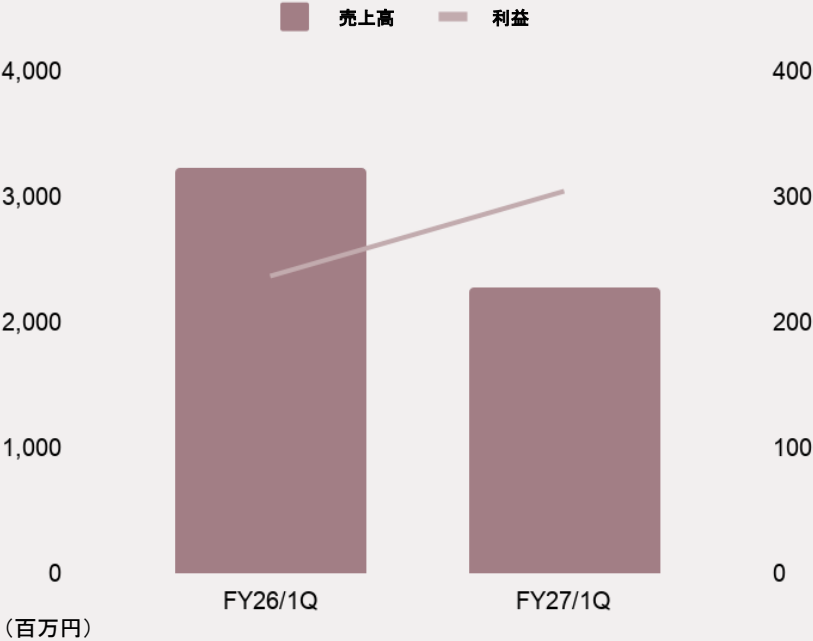
ホテル

客室単価の高水準推移、大型宴会の増加等により増収。



(百万円)		FY26/1Q	FY27/1Q	増減比率	
建築内装事業	売上高	3,231	2,272	▲959	▲29.7%
	利益	237	304	67	28.3%

※FY=会計年度：FY27は2026年4月～2026年6月の期間
※百万円未満を切り捨てて表示しております。



建築内装事業の分析

シネマコンプレックスの大型改装工事を受注。また、マンション建設工事、老健施設工事等が好調。一方、前年同四半期に障がい者支援施設等の大型工事があり売上高は反動減。

資材費が高騰する中、資材の早期発注等の取組みにより、業績への影響を最小限にとどめ増益。

企業価値向上に向けて

p11

女性取締役比率の向上

P12

配当政策

p13

組織改編

取締役会の多様性向上を目指して

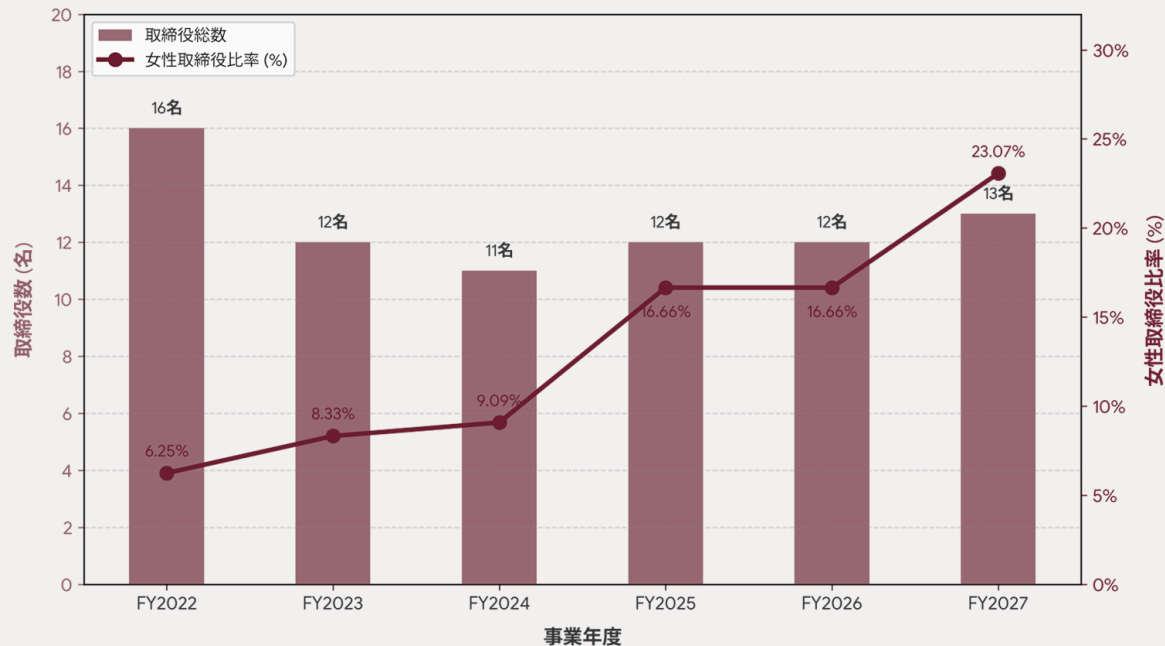
当社グループは、女性の活躍による多様性は、経済社会にイノベーションをもたらし持続的な発展を促すと考え、不可欠であると考えております。

政府による「女性活躍・男女共同参画の重点方針2023（女性版骨太の方針2023）」における、東証プライム市場上場企業を対象とした「2030年までに、女性役員の比率30%以上を目指す」という目標を意識し、女性役員の登用を進めてまいりました。

2026年6月26日に開催した第103期定時株主総会における役員の改選により、**女性取締役比率が昨年の16.66%から23.07%に向上しております。**

今後も女性の経営参画による事業の活性化を目指してまいります。

取締役数および女性取締役比率の推移 (FY2022 - FY2027)



配当方針の変更

当社は、2026年8月10日に、配当方針の変更を決議いたしました。

配当方針

- 単体配当性向 **30%** 目途
- 経営成績等も勘案しつつ、継続的で安定した配当を実施することを旨とする

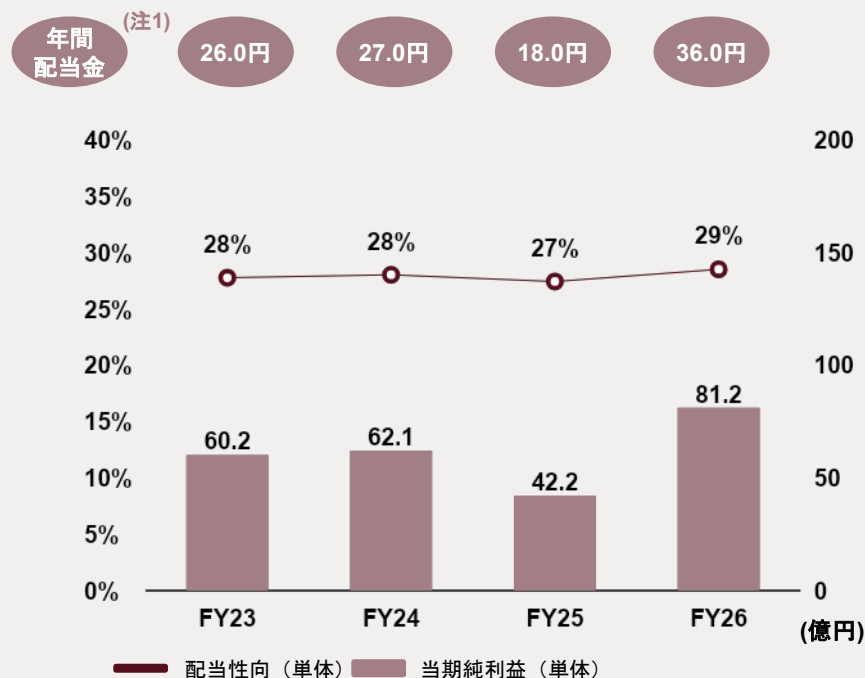
変更の理由

- 定量的な配当水準の明確化
- 当社は、変化が激しく先行きが見通しにくいエンターテインメントビジネスの特性を踏まえ、利益連動型の配当を株主還元の基本方針としております。この基本方針に変更はありません

今期（2027年3月期）の配当予想

- 中間配当予想6円および期末配当予想6円（1株あたり）につきまして、現時点においては変更ございません
- 変更後の配当方針に従い、今期の単体業績に応じ、今期の配当予想を修正する可能性があります

1株あたり配当金および配当性向・当期純利益（単体決算ベース）



注1: 普通配当と特別配当の合計値。2024年4月の株式分割（1:5）の影響を考慮した金額を記載

当社は映像本部における業務の効率化を目的とし、2026年7月1日に組織改編を行いました。

改編の趣旨・内容

① 映像本部管理部の新設及びドラマ管理部・コンテンツ管理部の廃止について

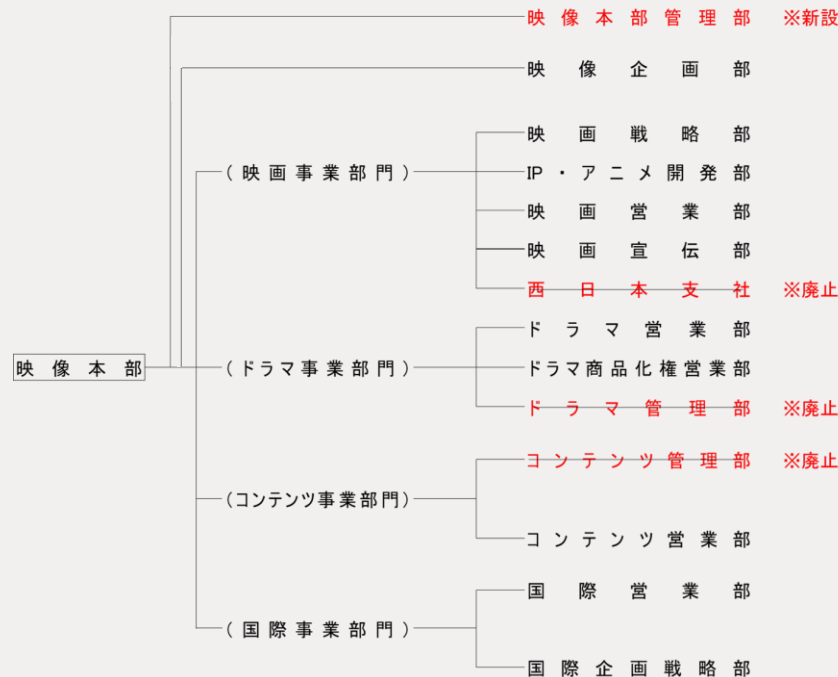
映像本部の管理業務を集約・統合し、業務の一元化を図るため、新たに『映像本部管理部』を設立しました。

映像本部全体における収支・投資管理および契約・権利処理の窓口を一本化することにより、情報の共有化と意思決定の迅速化などIP軸に根ざした組織として、事業展開をより強力にサポートする体制を構築しました。

② 西日本支社の廃止について

映画配給・宣伝業務の効率化を図るため、西日本支社を廃止しました。映画配給において近年の劇場ブッキングは本社映画営業部とシネコン各社の東京本社とのコミュニケーションがメインとなっており、映画宣伝においても、ローカルキャンペーンの減少と東京発信型のSNS展開が宣伝施策のメインとなっていることによります。

新組織図



※赤文字が改定箇所

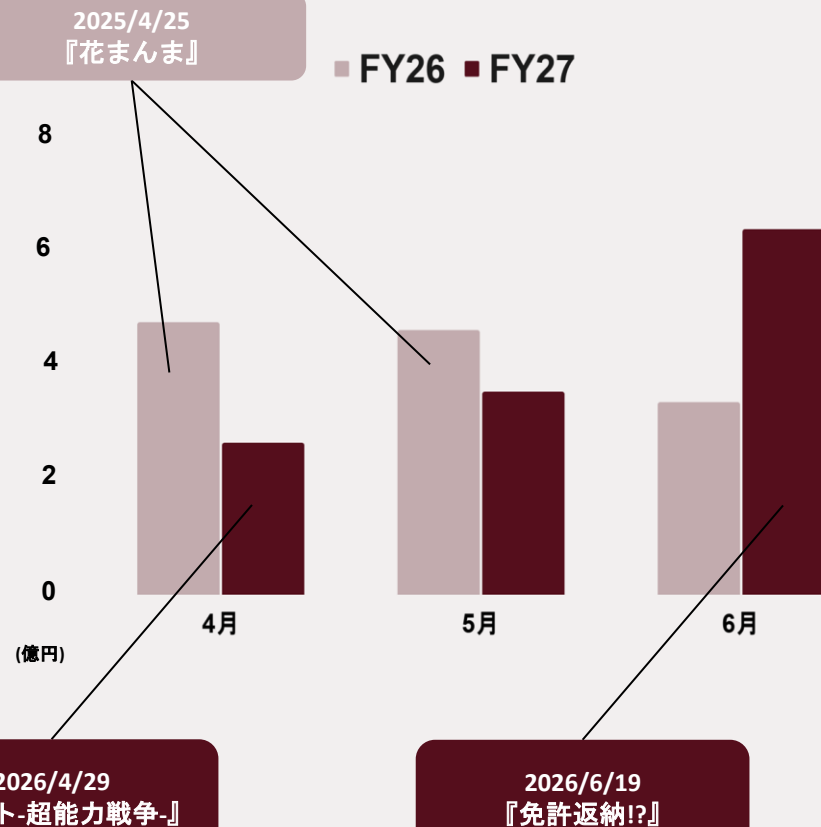


p15	映画月間興行収入
p16-18	作品ラインナップ
	映画 P16
	テレビ・配信・ラジオ P17
	催事・商品 P18
p19	東映グループのビジネスモデル
p20	中長期VISION「TOEI NEW WAVE 2033」全体像

月間興行収入 一覧

(億円)	FY26	FY27	前年度比	FY27月別の主な稼働作品
4月	4.6	2.6	56.0%	『アギト-超能力戦争-』『木挽町のあだ討ち』
5月	4.5	3.4	77.0%	『アギト-超能力戦争-』『木挽町のあだ討ち』
6月	3.3	6.2	189.8%	『免許返納!?』『SAMURAI BLUE Project for FIFA World Cup 2026TM』『ONE CREATURE』 無数の個性、ひとつの生きもの。』
合計	12.4	12.2	98.3%	

※FY=会計年度：FY27は2026年4月～2026年6月の期間
 ※百万円未満を切り捨てて表示しております。



映画

▶ 2026年

9月18日 『映画名探偵プリキュア！ 不思議な庭と2人の秘密』

9月25日 『葉にもすがる獣たち』

10月2日 『ママがもうこの世界にいらなくても 私の命の日記』

11月6日 『3ミリの恋』

11月13日 『楽園追放 心のレゾナンス』

12月25日 『BYE BYE LOVE 探偵はBARにいる』

▶ 2027年

1月8日 『高校生家族』

2月5日 『存在のすべてを』

3月12日 『ダーウィنزゲーム』

公開予定 『ぼけ日和』

公開予定 『腹をくくって』



テレビ

●実写

放送中 『仮面ライダーゼッツ』 (テレビ朝日系)
 放送中 『大追跡～警視庁SSBC強行犯係 Season2』 (テレビ朝日系)
 放送中 『角醒ハンター オメガホーン』 (テレビ朝日系)
 2026年9月6日～ 『仮面ライダーマイス』 (テレビ朝日系)

●アニメ

放送中
 『DIGIMON BEATBREAK』 (フジテレビ系)
 『名探偵プリキュア!』 (ABC・テレビ朝日系列)
 『ワンピース』 (フジテレビ系)
 『おしりたんてい』 (NHK Eテレ)

配信

配信中 『仮面ライダーゼッツ SERIES OF SISTER'S SUBSTORY エージェント美浪』
 (東映特撮ファンクラブ (TTFC) にて)
 配信中 『TTFC補完シリーズ 角醒ハンター オメガホーン ハンターたちの黙秘録 withギヤバン』
 (東映特撮ファンクラブ (TTFC) にて)
 2026年9月6日 『TTFC補完シリーズ 仮面ライダーマイス 十二支十色』 (東映特撮ファンクラブ (TTFC) にて)
 配信予定 『仮面ライダーシノビ 最終回』 (仮題) (東映特撮ファンクラブ (TTFC) にて)

ラジオ

放送中 『朝*おき子さん』 (ラジオドラマ/BAYFMIにて放送)



『朝*おき子さん』

催事

『ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト』 2026年6月～ 長野
 『マリメッコ展 模様のちから Marimekko: Art of Printmaking –Beauty, Dream, Love』 2026年7月～ 京都、東京、広島ほか
 『全スーパー戦隊展』 2026年7月～ 大阪ほか
 『名探偵プリキュア！ いっしょになぞとこ！ はなまるかいけつフェスティバル！』 2026年7月～ 東京、愛知
 『スーパーヒーロー夏祭り2026』 2026年8月 東京
 『真アギト展』 2026年8月～ 宮城、大阪、愛知
 『仮面ライダーゼッツ ファイナルステージ』 2026年9月～ 大阪、愛知、新潟、福岡、東京

ショー・舞台

舞台『てらこや青義堂 師匠、走る』 2026年8月 東京

商品

仮面ライダーストア ポップアップストア 2026年7月～ 鹿児島、富山、大阪、宮城
 「超宇宙刑事ギャバン インフィニティ」POP UP SHOP 2026年8月～ 東京、宮城ほか
 仮面ライダーストア 名古屋 2026年9月～ 愛知



① 自ら企画製作し、

多様で魅力的な作品群を企画

- ▶ 劇場映画 4,400作品以上
- ▶ テレビ映画 39,000話以上
- ▶ 配信映画 600話以上

オリジナル

原作もの



映像製作インフラ

▶ 撮影からポストプロダクションまでのワンストップ体制

撮影



東京撮影所



京都撮影所

映像研究



ツクン研究所

ポストプロ



東映ラボ・テック

アニメ



大泉スタジオ

② マルチユース展開

▶ 劇場からテレビ、ネット配信までマルチチャネルをカバー

配給

興行

テレビ放送

配信

DVD Blu-ray

商品化

書籍化

ゲーム化

イベント化

舞台化

海外展開



ティ・ジョイ



東映
オンラインストア



東映特撮
YouTubeOfficial

③ 作品をフランチャイズ化することで接点を増加 IPが生み出す収益の最大化を目指す

収益
最大化

IP認知度向上
ファン化等

利益の積重ね

企画

製作

マルチ
ユース

利益の積重ね

企画

製作

マルチ
ユース

IP

接点増加

To the World , To the Future

－「ものがたり」で世界と未来を彩る会社へ－

経営ビジョン2033

2026年で目指す姿

実写・アニメともにグローバルコンテンツの創造発信基盤を確立する

東映グループの強み

企画製作力

⋮

マルチユース展開

成長戦略

実写、アニメ映像事業を強化・拡大し、グローバル展開を加速する

重点施策

1 映像事業収益の最大化

1. 企画製作力の強化
2. コンテンツのマルチユース促進
3. IPライフサイクルの長期化

2 グローバル展開へのチャレンジ

1. グローバルメジャーと共同開発・世界展開
2. 現地企業とローカライズオリジナル作品の共同制作

3 映像事業強化のための人的投資の拡大

4 持続的なチャレンジと成長を支える経営基盤強化

- ① 事業基盤強化に向けた投資戦略
- ② コーポレートガバナンスの強化
- ③ サステナビリティへの取り組み
- ④ 資本・財務戦略

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれていますが、実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承下さい。また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問合せ
東映株式会社 経営戦略部広報室
MAIL : keisen_koho@toei.co.jp

©曾根圭介／講談社 ©2026「藁にもすがる獣たち」製作委員会 ©2026映画名探偵プリキュア！製作委員会 ©遠藤和／小学館 ©2026「ママがもうこの世界にいても」製作委員会
©2026「3ミリの恋」製作委員会 ©東映アニメーション・ニトロプラス/楽園追放ソサイエティ2 ©2026「BYE BYE LOVE 探偵はBARにいる」製作委員会 ©テレビ朝日・東映AG・東映
©2026石森プロ・テレビ朝日・ADKEM・東映 ©本郷あきよし・フジテレビ・東映アニメーション ©ABC-A・東映アニメーション ©東映特撮ファンクラブ ©「朝おき子さん」製作委員会
Photo: Brooklyn Museum Klaava, Annika Rimala, 1967 Viidakko, Pentti Rinta, 1981 Seppel, Antti Kekki, 2022 ©東映 ©石森プロ・東映 ©Marvel Characters, Inc. All Rights Reserved
©石森プロ・テレビ朝日・ADKEM・東映AG・東映 ©2025石森プロ・テレビ朝日・ADKEM・東映 ©今村翔吾／小学館／舞台「てらこや青義堂師匠、走る」 ©石森プロ・テレビ朝日・ADKEM・東映 ©2025「港のひかり」製作委員会 ©テレビ朝日・東映 ©I.T.PLANNING, INC. ©2022 THE FIRST SLAM DUNK Film Partners ©赤坂アカ×横槍メンゴ／集英社・2024映画【推しの子】製作委員会